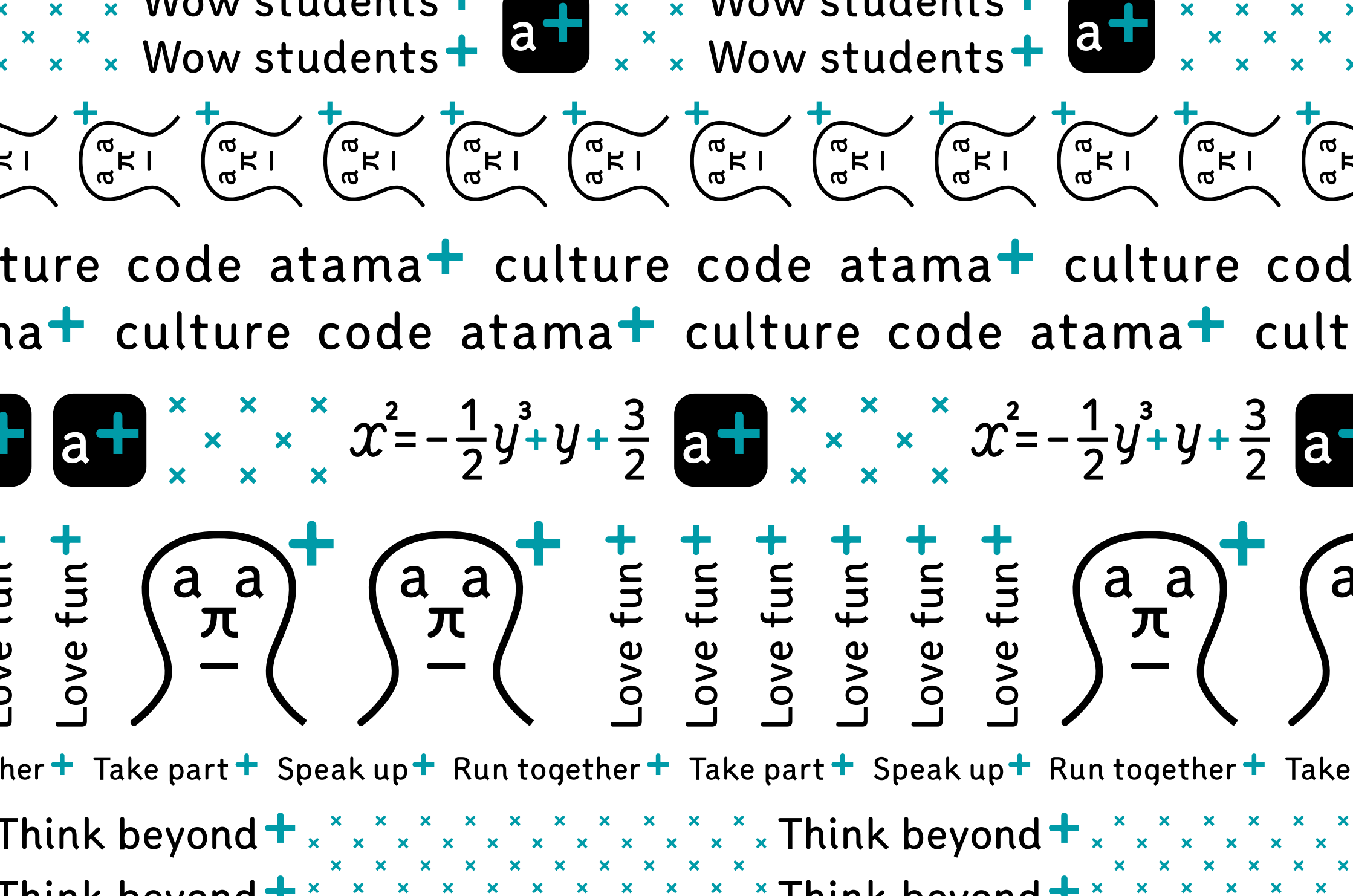




Mission

教育に、人に、社会に、次の可能性を。

教育を新しくすること。

それは、社会のまんなかを新しくすること。

私たちは学びのあり方を進化させます。

学習を一人ひとり最適化し、「基礎学力」を最短で身につける。

そのぶん増える時間で、「社会でいきる力」を伸ばす。

それが私たちの目指すもの。

自分の人生を生きる人を増やし、

これからの社会をつくっていきます。

Mission



atama plusはなぜ存在するのか。答えは明快です。「Missionを実現するため」、それ以外にありません。社会のまんなかを新しくするために、限られた生徒ではなく、数億という規模の生徒に良い教育を届けていく。そのために最先端のテクノロジーやアイデアを活用し、教育を進化させる持続可能な仕組みをつくります。そしてそれをなるべく早く実現することを目指します。

ですから、意思決定の基準もシンプルです。あらゆる決定の基準は、究極的にはただひとつ。「Missionの実現に向かって前進しているか?」。それだけです。判断に迷ったらここに立ち返ります。それ以外に、誰の顔をうかがう必要もありませんし、目先の利益を追う必要もありません(いえ、もちろん利益も大切ですが)。Missionの実現に向かって、日々前進する。これを最優先とします。

Missionを最短で実現するためには何が必要か。「学び本来のワクワクを誰もが味わえるようにする」と。だと私たちは信じます。この信念をPrincipleすなわち「あらゆる行動や開発の原則」と「Wow students」というコトバで表しています。そしてValuesと呼ばれる5つの価値観を共有し「一人ひとりがMissionの実現に取り組んでいます」。

5つのValues (Take part / Think beyond / Speak up / Run together / Love fun)はすべてつながっています。どれかに特化するとういうものではありません。すべてを満たすことで相乗効果が生まれ、大きな力となりMissionを実現できる強いチームになっていく。私たちはそう考えています。

Mission Principle ValuesについてまとめたCulture codeは、私たちを、私たちがたらしめるものです。何を信じ、何をよしと感じ、何をリスクと見るか。atama plusのカルチャーが記されています。信じるもの、感じ方の合う人と働くと最高に楽しいし、パフォーマンスも上がります。その逆は・・・悲劇です。ですから、atama plusという「場」を共にする一人ひとりにとってCulture codeは決定的に重要です。各々の働き方や日々の意思決定の基盤になります。

私たちは「全員がCulture codeについて同じ認識をもち、行動に表れている状態」であり続けるために力をつくします。なぜなら、その状態であれば細かい(そしてつまらない)ルールが不要になるからです。細かなルールなどなくとも、個々の判断・行動が常にひとつの大きな方向を向いている。Mission実現を加速させることができます。Culture codeは、自律したプロフェッショナル集団が全速でMissionを推進していくためのエンジンなのです。

Mission

私たちの果たすべき使命

教育に、人に、社会に、次の可能性を。

Principle

Mission 実現のため、私たちが信じる行動・開発原則

Wow students+

Values

Mission 実現のため、私たちが日々大切にしている価値観

Take part +

Think beyond +

Speak up +

Run together +

Love fun +

Wow students+

Principle

Wow students+



生徒が熱狂する学びを。

勉強をワクワクするもの、
自分からやりたいものに変え、
生徒一人ひとりの可能性を広げる。
私たちのあらゆる行動は、
ただ、そのためにあります。

● まず最初に語るべきは、
学びとはワクワクするものだという信念です。
勉強することは嫌なもの、退屈なものだという人がいます。

私たちはそうは思いません。
わからなかったことがわかるようになる。
知らなかったことを知る。

できなかったことができるようになる。

それは歓びに満ちた驚きであり、高鳴りであり、感動です。

このように学ぶこと自体に楽しみを見出し、

勉強が「やらされるもの」ではなく「自分からやりたいもの」になる。

それが熱狂する学びだと私たちは考えます。

そんな学びを無数の生徒に届けることで、一人ひとりの可能性を広げ、
ひいては社会の可能性を広げられると信じています。

● この熱狂する学びを、プロダクトを通して、
あるいは顧客やユーザーとのコミュニケーションを通して広げます。
プロダクトも、コミュニケーションも、
あくまで「Wow students」という原則のもとに開発・選択される手段です。
「Wow students」と切り離して手段のみを追求すること、
例えば一時的な評価や表面的な数字を追うことは決してしません。
常に「Wow students」にもとづいて
最適な手段を選択し、行動します。

● 私たちが生みだすものは、単なる教材ではありません。
熱狂する学びによって、まずは「基礎学力」を
最短で身につけられるような仕組みをつくります。
その先には「社会でいきる力」を伸ばすような教育をつくり、
社会全体の進歩に大きく寄与していきます。

Values

Take part +

Think beyond +

Speak up +

Run together +

Love fun +

Take part +

未来を、一人ひとりが。

私たちは、一人ひとりが

Missionのオーナーです。

自らの「今日」と、

全体で向かう「明日」を結びつけ、

自らの仕事で

Missionを前へ進めます。

- 自分ごとで、いう。

Missionの実現は、'atama plusのあらゆるアイデアやチャレンジがひとつの方向を向いていなければ決してかないません。私たちは、全員が社内のさまざまな戦略や意思決定を自分ごととし、自分や自チームでできること、やるべきことはないか常に考えます。そのために必要な情報は、自ら取りにいけます。

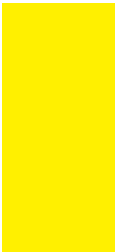
- 迷ったら、Missionへ。

判断や意思決定に迷ったときには、Missionに立ち返って考えます。私たちのMissionは「ホームページの奥にしまい込まれた飾り物」ではありません。毎日のモノサシです。

特に、目の前の業務に追われているときは意識から薄れがちなので、自覚して行動に活かします。

- 情報を、いつでも全員が。

全員が同じ情報に自由にアクセスできれば、判断・意思決定のスピードと精度を上げることができる。そう考え、私たちは非公開にすべき特別な理由がない情報、共有にコストのかからない情報はすべて開示します。一人ひとり自律したプロとしてその情報を活かします。



Think beyond+

本質を、たえまなく。

イノベーションは、こつこつと。

これまでの「当たり前」にとらわれず、

本質を追いつづけ、

変化を積み重ねて

社会を新しくします。

- 先入観、ゼロ。

今あるやり方は、冷静に紐解くと単なる慣習であったり、かつては意味があったが現在は前提が変わってしまっているもの、ということが多々あります。

私たちはそうした「当たり前」を疑います。

現状を深く理解し、問題の本質を突き詰め、

本当に必要なことは何か、それだけを追求します。

- ヒントは現場にある。

現場は気づきの宝庫です。

私たちは机上の空論よりも、

現場で見たこと、聴いたことや実データを重視します。

ただし、顧客やユーザーの声を

「聴くこと」と「鵜呑みにすること」は違います。

私たちは彼らの声をなぞるのではなく、
まだ顕在化していない真の悩み、真の不満、真の欲求を発見し、
世の中になかった解を生みます。

- 方法は、柔軟に。

価値を生むにあたっては、

すべてをゼロから生むことにはこだわりません。

世の中にある先行例や資料から学び、

それらを貫く原理原則を見出して

私たちの状況に応用することもあります。

活かせるものは活かし、真にリソースを割くべきことに注力し、

最も適した方法で価値を生み出します。

Think beyond+

- 小さなイノベーションを重ねる。

社会は、ひとつのビッグアイデアでは変わらない。

それを可能にするのは、

地道で飽くなき小さなイノベーションの積み重ね。

それが私たちの考え方です。

私たちはプロダクトもサービスも

“永遠に”アップデートしつづけます。

最速でカタチにし、

現場のリアルなフィードバックで常に改良しつづける。

その先に未来を拓きます。



Speak up+

話すを、力に。

話し合う、磨き合う。

意見の違いを「力」に変え、
Missionを実現していく

風通しのよさと、

リスペクトにあふれた場を
仲間とつくります。

- **まず、仲間を知る。**

おたがいのバックグラウンド、価値観、考え方、強みや弱み、取り組んでいることなどに関心を持ち、理解し合える環境を共につくり守っていきます。仕事は一人ではできないのだから。仲間を知ることが、*atama plus*で過ごすすべての時間をクリエイティブなものにする第一歩だと私たちは考えます。

- **遠慮ナシ、敬意アリ。**

よりよいプロダクト、サービスをつくっていくためには建設的な議論が不可欠です。私たちは必要な際には役割を越えて、ポジティブ／ネガティブ

両方の意見をオープンに交わします。遠慮は不要。率直に、活発に、ただし相手への敬意（＋可能なら少しのユーモア）を持ってぞんぶんに話し合います。

- **伝える努力、という責任。**

人は納得しているかどうかで行動に差が出る。それが私たちの前提です。何かの意思決定を行い共有する際には、結論だけでなく背景や根拠まで説明します。もちろんすべてを共有するのは現実的に不可能ですが、**同じ方向を向くために最大限の努力をします。**それは、共に働く仲間への責任です。

- イマジネーションを、忘れずに。

私たちは、一人ひとりバックグラウンドも役割も違います。ですから、誰かの「当たり前」が別の人には「当たり前」でないということが頻繁にあります。

この壁を越える最大の武器がイマジネーションです。

自分の一言は、相手にどう響くか、何をのこすか。

常に肌で感じながらコミュニケーションします。

- 聴くを、真摯に。

意見をもらったら前向きに耳を傾けます。

バックグラウンドの違う相手に意見するのは勇気のいること。

その勇気に敬意を払い、真摯に受け止めます。

必ずしもその声に対し説明や行動の義務を負うわけではありませんが、自らのプランにいたずらに固執せず、

活かせることはどんどん取り入れます。



いち早く、共に。

ひとつの大きなチームとして。

たがいを信じ、変化に応じ、

次々とスピーディーに

新たな価値を生み出します。

Run together +

- 一丸 & スピーディー。

私たちはSpeak upのマインドで
とことん意見をぶつけ合いますが、
一方で無意味な「議論のための議論」には陥りません。
スピードが生命線。

議論後は意思決定を担う人・チームを信頼し、
最終決断は任せ、いったん方針が決まれば
同じ方向を向き全速で前へ進みます。

- 最強の、変化対応力。

私たちは、一度決めたら思考停止してしまう
硬直した集団ではありません。
状況の変化により、
方向転換が必要となる場面はしばしばあります。

そんなときは一切ためらいません。

最優先は、Missionの実現。

最速かつ柔軟に変化します。

（ただし、当然その背景・根拠は、

いつも以上に仲間に「伝える努力」をします）

- 個人戦より、チーム戦。

私たちは個人の作業効率より、チーム全体の成果を優先します。

個人の成果の単純な合算より、

はるかに大きな変化を社会にもたらせると信じるからです。

この時代、この場で、この仲間たちと出会えた、

その巡り合わせに感謝して。

私たちは、一人では行けない未来へ行きたいと考えています。

Love fun+

それ、楽しんじやおう。

社会を変える。

それは、困難で当然。

チャレンジするからこそ

出会えるあらゆる状況を楽しみ、

日々笑い合って仕事します。

●挑戦のすべてを、ワクワクと。

困難も、試練も、誰もやったことのないことに挑んでいるからこそ味わえるもの。

私たちはその“特権”を心から楽しみます。

「居心地のいい現状」にとどまることなく、

自ら挑戦し、仲間の挑戦を応援します。

失敗も含めて常に前向きに受け止め、成長の糧とする。

そんなチームでありつづけます。

●笑顔やユーモアの力を信じる。

仕事は、人生の多くの時間をさくもの。

義務感や外からの力で働いてはもったいない。そう思います。

私たちは、自らの場を、自ら楽しくします。

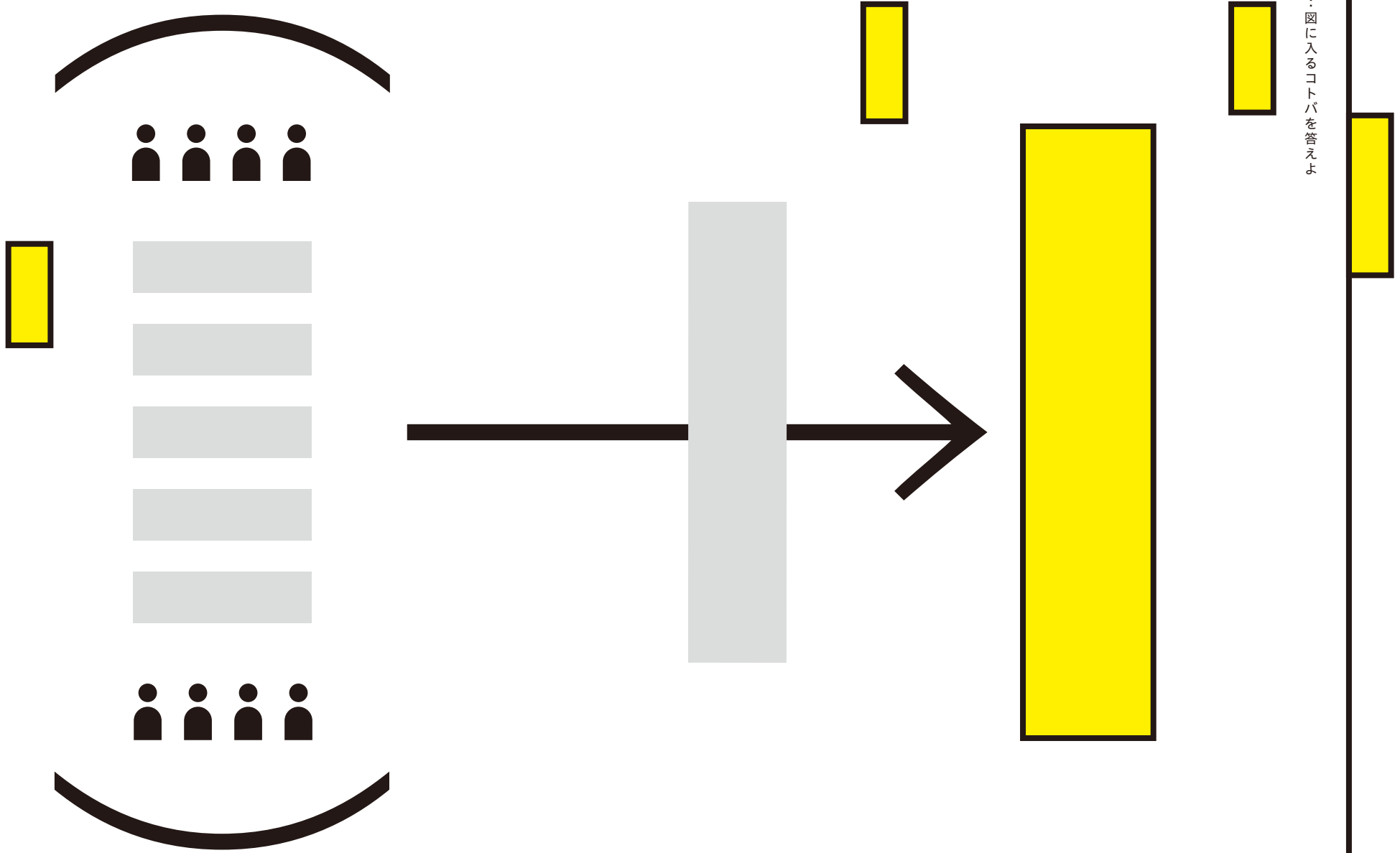
多様な仲間たちと笑い合い、ユーモアを交えて仕事する。

それが結局は、良いプロダクト・サービスを生み、

Mission実現を加速させる原動力にもなると信じています。



問題：図に入るコトバを答えよ



Wow 哇

これは、学びの熱狂（Wow）が生み出す鼓動の高まりを表す曲線です。
私たちのサービス「Stablea+」の「アタマ先生」の輪郭線として用いられています。
生徒一人ひとりの心を、ひいては社会を、学ぶことのワクワクで満たす。
その結果ふくらんでいく希望や、わきおこる好奇心、
広がる未来のしるしでもあります。
さあ、教育を、社会のまんなかを新しくするために。
今日も、明日も、いっしょにWowをどこまでも広げていきましょう。

$$x^2 = -\frac{1}{2}y^3 + y + \frac{3}{2}$$

